



ご来園の皆様への感染症予防のために

- ◆ ご来園前に、検温等を行ってください。
- ◆ ご入園の際は、体温確認させていただきます。
- ◆ 園内では、マスク等を着用し、人との距離の確保をお願いします。
※ 人との距離を十分に取ったうえで、適宜マスクを外すなどの休憩をとり熱中症の予防を心がけてください。
- ◆ 未来くん広場(遊具・きのこ文庫)を閉鎖、観覧温室内の昼夜逆転室を閉室しています。
- ◆ 水琴窟の使用を禁止しています。

ご理解ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

※ 講演会・講習会等を再開しましたが、定員30名以内です。ご理解ください。

第29回 食虫植物展

○期間：7月23日(木・祝)～8月10日(月・祝)
○場所：観覧温室特別展示室
○内容：ウツボカズラ、サラセニアなど100種展示

第4回 帰化植物展

○期間：8月7日(金)～8月16日(日)
○場所：植物園会館1階展示室
○テーマ：「侵略的外来植物」
○内容：帰化植物の写真、解説パネル及び切花等の展示

◆8/9(日) 帰化植物展関連観察会

植物園会館2階研修室 13:30～15:00
(当日会場受付 13:00～)

内容：「帰化植物を観察しよう」
帰化植物についての説明及び生育地での観察

第59回 植物学習相談会

○日時：8月15日(土) 9:00～12:00、13:00～16:00
○場所：植物園会館2階研修室
○内容：植物標本の仕上げ方や植物同定などの相談

「芦生の天然林と着生植物」写真展

○期間：8月21日(金)～8月30日(日)
○場所：植物園会館1階展示室
○内容：京大芦生研究林内の植物などの写真約50点

バラ剪定講習会

○日時：8月22日(土) 13:00～15:00 (受付12:30～)
○場所：植物園会館2階研修室及びばら園
○内容：バラの夏剪定の方法と目的
○講師：日本ばら会京都部会会員

第5回 水草展

○期間：8月28日(金)～9月22日(火・祝)
○場所：植物園会館前
○内容：様々な水草を鉢で屋外展示

「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説!

毎週土曜日は・・・

植物園会館前集合：午後1時スタート! (30分程度)



「植物園ガイド」が植物案内!

～見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増!～

- ① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
- ② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
- ③ ガイドは当面30分程度。(無料)

* 申込先：京都府立植物園 TEL 075-701-0141

植物園芸相談

■ 毎週 日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時
■ 電話075-701-0141で



スマホdeガイド

QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! 「おすすめ樹木めぐり」「おすすめエリアガイド」などをスマホで確認し、植物観察!

※年間パスポート好評発売中

- ・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!
大人1000円 高校生750円
- ・入園門でご購入いただけます。是非お買い求めください。
※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



今週の「探して！」
2020. 8. 7
13号

⑫ オニブキ

グンネラ科。ブラジル南東部のセーハ・ド・マール山脈に自生。葉柄の長さが1m以上、葉の直径が大ききものでは2m近く、草丈3mほどになり、「地上で最も巨大な葉を持つ植物」と称して、大阪花博などで日本に紹介された。

⑪ レンゲシヨウマ

キンポウゲ科。本州の主に太平洋側の暖温帯地域に分布する日本固有の植物。花姿がハス(蓮華)に、葉がサラシナシヨウマに似ることから名前が付いた。ガクは薄紫色で平らに咲き、本物の花卉は抱えるように咲く。1属1種。

⑩ ハエトリグサ

モウセンゴケ科。北アメリカのノースカロライナ州、サウスカロライナ州に分布する食虫植物。左右の葉の内側に感覚毛が3本ずつあり、2回以上触れると瞬時に葉を閉じる。風雨などの誤作動を防ぐため、1回の接触だけでは葉は閉じない。

⑨ 変化アサガオ

ヒルガオ科。アサガオの突然変異した種類を選んで交配させ、花と葉の形の珍しさを観賞。江戸時代から現代に受け継がれている伝統園芸植物。多くは遺伝的に弱いため維持・保存が困難だが、愛好家などによって継承されている。

① ムクゲ

アオイ科。中国やインドなどに自生。日本へは平安時代初期には渡来していたと考えられる。韓国では国花でもあり「無窮花(ムグンファ)」と呼ばれている。花の少ない夏の間中咲いているように見えるが、多くの花は一日で散る一日花。

② トウジンビエ

イネ科。熱帯アフリカ原産。少雨、貧栄養土壌、高温という栽培条件に適しており、全世界の雑穀栽培の約50%を占める。現在では美しい穂を持つ幾つかの種が観賞用としても利用される。葉色は緑葉のものから銅葉など品種により様々。

③ アザレアツバキ

ツバキ科。中国広東省原産。ツバキ属の中で珍しい「夏咲き」で7月頃から咲き始める。夏に咲く「ナツツバキ」は有名で、同じツバキ科ではあるが、ナツツバキ属に分類される。一重咲きで鮮やかな紅色の花弁が特徴。

④ モミジアオイ

アオイ科。北アメリカ東南部原産。葉が指を開いた手のひらのような形でモミジに似ていることが、和名の由来。花は朝に開いてその日の夕方にはしぼんでしまい短命だが、葉の付け根に次々とつぼみを付け連続して咲き続ける。

⑤ ヒョウタン

ウリ科。アフリカ原産。かんぴょうの原料であるユウガオの仲間。日本での栽培は古く「日本書紀」にも登場する。乾燥させた果実を水筒などの容器に使うなど、人々の生活との関わりは深い。丸いものや細長いものなど形状は様々である。

⑥ サルスベリ

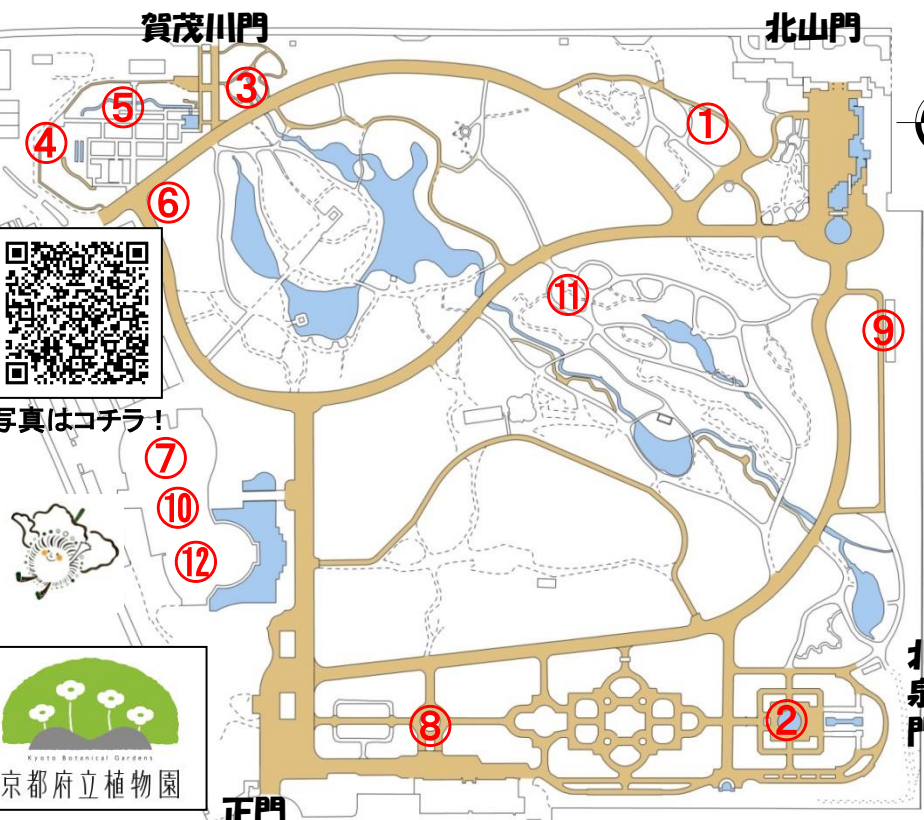
ミソハギ科。中国南部原産。樹皮がはがれたすべすべした幹肌で、「木登りの得意な猿でも滑って登れない」という和名の由来となった。別名の百日紅のとおり、花木の少ない夏の時期から秋口まで長期間にわたって花を付ける。

⑧ ヒマワリ

キク科。北アメリカ原産。和名「ヒマワリ(向日葵)」は、太陽の動きに合わせて花がそちらを向くことに由来しているが、実際は生育が盛んな若い時期だけで、花が咲いてからは動かない。種の配列は規則正しく、フィボナッチ数列の代表例。

⑦ アリストロキア・トリカウダ

ウマノズクサ科。メキシコ原産。花のように見える部分はガクで、3方に裂けて、その先端部が尾状に約10cm垂れ下がるのが特徴。そのことから、種小名のトリカウダは、ギリシャ語で「3つの尾状のもの」という意味から付けられた。



写真はコチラ!



京都府立植物園